

第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

日 時 令和3年8月12日(木) 午後7時00分～午後8時22分

場 所 Web会議

出席委員 9人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 宮 坂 一 平 委員 飯 田 真奈美 委員

野 口 真 由 委員 小 野 裕 平 委員

大 森 康 雄 委員 小 宮 貴 大 委員

天 野 建 司 委員

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課企画政策係主任 前 坂 悟 史

企画政策課企画政策係 鎌 田 莉 央

傍 聴 者 実施せず

(午後7時00分開会)

◎渡邊委員長 ただいまから第2回の小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を開催いたします。

本日はウェブでの開催となっておりますので、事務局で出席者の確認をお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 本日は全員御出席をいただいています。よろしくお願いいたします。

◎渡邊委員長 この会議の定足数は委員の半数となっております。現在、全員出席ということなので本会議は成立しております。

それでは、会議に先立ちまして配付資料の確認などを事務局でお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 それでは、資料の確認をさせていただきます。

資料は事前に郵送させていただいておりますので、次第が1枚、資料1、資料2、参考資料がございます。それから、資料3、評価シートの冊子がございます。不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、会議に先立ちまして、改めてウェブ会議のルールを共有したいと思います。

発言する際は挙手をしていただき、指名されましたら御発言をお願いいたします。カメラはオンにさせていただくようお願いいたします。雑音などを避けるためにマイクはミュートにさせていただき、発言するときにマイクをオンにするようお願いいたします。また、委員以外の方が映り込まないように御注意をお願いします。

続いて、その他注意事項になります。録音や録画は行わないようお願いいたします。また、通信が途切れたときには、事前に御案内した事務局の電話へ連絡をお願いいたします。

ここまでで御不明な点などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この後、議題に沿って進行いただきたいと思います。委員長、よろしくをお願いいたします。

◎渡邊委員長 それでは、議題1の総合戦略数値目標（第1期）の達成状況についてを議題としたいと思います。事務局で御説明をお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 それでは、資料について説明させていただきます。

まず、資料1、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標（第1期）の達成状況についてを御覧ください。

総合戦略におきましては3つの基本目標を掲げており、それぞれに対応する数値目標を設定しております。

平成26年度から令和2年度までの数値目標の達成状況について、一覧にまとめておりますので御覧いただきたいと思います。

なお、基本目標1の「市内滞在人口の1日平均人数の増加」につきましてはRESASからの情報を基に設定したのようになりますが、現在はRESASからこの項目自体がなくなっており、平成27年以降の情報を確認することができないため空欄としております。

また、基本目標1の「市内3駅の1日平均の乗客数の増加」、基本目標2の「合計特殊出生率の向上」、「若者・子育て世代（15～39）の転入超過数の増加」につきましては、現時点で確認できる最新の情報が令和元年の数値のため、令和2年は空欄としております。

それでは、上のから順番に見ていきたいと思っております。

まず、市内3駅の1日平均の乗客数についてですが、こちらは令和元年まで毎年順調に増加してきているところです。しかし、数字は出ておりませんが、令和2年については新型コロナウイルス感染症の影響により駅の利用者数の減少ということも予想されるかと思っております。

次に、合計特殊出生率についてですが、こちらは平成26年の1.34と比べ、令和元年には1.24と減少傾向にあります。

なお、令和元年の都内平均は1.15、市部の平均が1.23となっております、小金井市は都内では平均よりも僅かですが、高い数字となっております。

ただし、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により全国で出生率が下がっており、小金井市においても同様の傾向にあると予想されます。

次に、若者・子育て世代の転入超過数についてですが、こちらはその年により増減はあるものの、転入が転出を上回る状況が続いております。

なお、令和2年につきましては、東京都から正式な数字としては公表されておきませんが、現時点で1,179人という参考数値が出ております。この大幅な増加につきましては、令和2年に武蔵小金井駅の再開発に伴う大規模マンションの建設によりまして転入者が増えたためと

考えております。

次に、「小金井市の住みやすさの向上」と「小金井市に住み続けたいと思う市民の割合」についてですが、こちらは毎年行っている「市長への手紙」というアンケート調査の結果を集計したものになります。平成26年以降、どちらも徐々に増加傾向にありまして、アンケート調査の結果からは、小金井市を住みやすいと思う人、住み続けたいと思う人が増えてきているということが分かります。

次に、資料2「小金井市の人口分析」を御覧いただきたいと思っております。こちらは、計画期間の2015年（平成27年）以降の小金井市の人口推移等をまとめた資料になっております。

まず、人口の総数を御覧いただきたいと思っております。総数につきましては、2015年の総数が11万7,671人となっております、毎年増えております。2021年4月1日現在では12万4,078人となっております。

次に、その下の年齢3区分の推移を御覧いただきたいと思っております。年少人口、生産年齢人口、老年人口ごとに上段に人口数を、下段に構成割合を表にしてまとめております。

表の一番右側、2015年からの伸び率の欄を御覧いただきたいと思っております。人口数につきましては、2021年までの全ての年齢区分で増加傾向にあります。小金井市の特徴としては、年少人口の伸び率が最も高くなっており、次に老年人口、生産年齢人口と続いております。そのため構成割合については、年少人口と老年人口が増えた一方で、生産年齢人口は減少傾向にあります。

次に、裏面を御覧いただきたいと思っております。こちらは、町別の人口と小金井市を3つの地区に分けた地区別人口の推移を表にまとめたものでございます。町別人口の伸び率を見ますと、中町は2015年からの伸び率が99.7%となっております、おおむね横ばいで推移しておりますが、その他の地域では増加傾向にあります。人口数については、東町、緑町、本町では2015年と比べて2021年にはそれぞれ1,000人以上増加しております。

続きまして、地区別人口の伸び率を見ていきますと、全ての地区で増加しているものの武蔵小金井地区では106%、東小金井地区では107.6%というのに比べて野川地区は101.8%と低くなっておりまして、地域による差も生じております。

次に、参考資料「転入・転出の状況」という資料がございます。こちらを御覧いただきたいと思っております。こちらは、令和2年の都内転入者の前住所地、都内転出者の転出後の住所地をグラフにしたものでございます。こちらの資料については、東京都の正式な統計データが公表されていないため、現時点で判明しております国の集計表から参考資料として作成をしております。

転入前の住所地では杉並区からの転入が最も多く、続いて武蔵野市、三鷹市、府中市、小平市等からの転入が多くなっております。転出後の住所地では、小平市、杉並区、国分寺市、武蔵野市等への転出が多くなっております。

なお、平成26年当時の状況と比較してみたところ、やはり転入が最も多いのは杉並区であ

りまして、転出が最も多いのは小平市でございました。その他の自治体についても、現在とおおむね同じ順位となっております。そのため、自治体間の人口移動の傾向については、ここ数年で大きく変わることなく推移してきたものと考えております。

裏面を御覧いただきたいと思います。上段は転入者と転出者の差をグラフにしたものでございます。グラフがプラスになっている自治体は転出者よりも転入者のほうが多く、小金井市に人が流れてきているところになります。反対にマイナスの自治体は小金井市から人が流れていっているところになります。

下段のグラフを御覧いただきたいと思います。転入状況を年齢別にしたグラフでございます。年齢別に見ますと、10代及び20代前半において都外からの転入が特に多く、25歳以降は都内からの転入が多いことが分かります。これは、市内の大学や就職のため20代前半までに都外から転入する人が多いためと考えております。

年代別の転出入の状況を見ますと、特に20代から30代までの転出入の人数が多くなっており、今後、生産年齢人口を維持するため、第5次基本構想においてもこの世代の転入維持と転出抑制を課題としております。

資料の説明につきましては以上となります。

なお、本日はこの後、令和2年度の評価シートの確認もございまして、そちらの結果も踏まえて、最後に全体についても御意見等ございましたら伺いをしたいと思います。まずは資料の御確認をお願いいたします。

◎大森委員 先ほどの資料1の基本目標3の住みやすさ、住み続けたいという部分に関してなんですが、先ほど市長への手紙の結果を基にしてということだったんですけど、分母は大体どのぐらいのものなんでしょうか。

◎梅原企画政策課長 市長への手紙についてでございます。市長への手紙については、毎年、無作為抽出しました2,000人の方に対しましてアンケート調査をさせていただき、毎年回収できる数は変わってきますけれども、今具体的な数字を持っておりませんが、回収率が30%ぐらいだと思いますので、30%ですと2,000の30%ですので600人ぐらいということになります。

◎大森委員 分かりました。ベースが分からないとあれだったのであれですけど、そういうことでしたら分かりました。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。ほかに御質問はございませんか。次の議題に移ってよろしゅうございますか。

◎渡邊委員長 それでは、次の議題2の「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦」施策の効果検証についてを議題としたいと思います。事務局のほうで説明をお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 それでは、資料3「まち・ひと・しごと創生総合戦評価シート（取りまとめ）」を御覧いただきたいと思います。委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、事

前に評価シートの作成をいただき誠にありがとうございました。

初めに、皆様からコメントをいただいた中で指標が適切でないという御意見をいただいております。具体的には、シート2及び26の指標、住居専用地域の割合や、シート5の指標、小売業の年間商品販売額などになりますが、数字自体が毎年度確認できるものになっていなかったりということで、毎年度の取組成果を確認するという目的に合っていない指標が見られるということにつきましては、私どもも課題として認識をしております。

第5次基本構想との統合後の指標につきましては、反省を踏まえまして適切な指標を検討するとともに、複数の指標によって施策全体の進捗を確認し、改善につなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、シート5の小売業の年間商品販売額については、5年に一度の経済センサス活動調査の数値を用いておりますので、毎年度の確認はできませんが、この分野での客観的な数値として確認できるものがほかになかなか見つかりませんので、第5次基本構想前期基本計画におきましても、産業、観光の施策の指標の1つとしております。

ただし、他の指標と組み合わせることで施策の進捗を適切に確認してまいりたいと考えております。

指標につきましては以上でございます。

この後は、各評価シートにつきまして委員の皆様からいただいたコメントを集約する形で委員会としてのコメントをまとめておりますので、本日はその御確認をお願いいたします。

各評価シートの委員評価取りまとめの欄を御確認いただき、御意見をいただければと思います。

なお、シート6につきましては既に御回答をいただいているところでありますが、担当課による自己評価の部分に修正がございましたので、本日は保留とさせていただきたいと思っております。御協力いただいたところ誠に申し訳ございません。次回、同じく保留となっておりますシート1、シート15と併せて、改めて御確認をお願いしたいと思います。

それでは、資料3「まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート」の検証をお願いいたします。量が多くなっておりますので、基本目標ごとに区切って進行いただければと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

◎渡邊委員長 それでは、評価シートの検証に入りたいと思っております。初めは、基本目標の1「小金井市の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」ということで、シートナンバー2から14について確認していきたいと思っております。

事務局で皆さんからいただいた意見を集約した格好で整理しているようではありますが、ざっと読んでまいりたいと思っております。

まず、評価シートの2番です。委員会の取りまとめという欄、「住居専用地域の割合は大きく変更がないため、指標にとらわれず能動的な行動を求める。次年度以降は指標を改めるべき。都市計画変更の有無は市民への周知が難しいので、紙ベースでの情報発信を積極的に継続させ

ていただきたい」という格好でまとめております。何かこの件、特にございましたら。後からでも結構です。

それでは、次に評価シートの3ですけれども、これは皆さんから大変意見をいただいて、長めのコメントになっています。「大きな事業であり東京都との調整を確実に進め、無事完了したことは評価できる。南口の事業完了にともない、今後も小金井らしいローカルで温かい雰囲気かつ利用しやすく便利な印象を市報やインターネット・SNSを利用して多くの人に知っていただけるよう情報発信に尽力してほしい。また、南口と北口で、街の魅力が分断されないよう丁寧な都市計画の説明・取組の情報発信を継続的に実施してほしい」という格好でまとめていただいております。大体皆さんの御意見を網羅していると思っておりますけれども、後ほどでも結構です。評価シートについて何かコメントがあったらお願いします。今でも結構です。

次、評価シート4でございます。「年々着実に進んでいること、電線共同溝の設置は評価できるが、遅れが生じたものの原因検証と反省が必要。今後必要な交渉にあたっては、地権者一人一人に寄り添った丁寧な対応をしていただきたい」という格好でまとめていただいております。

次が評価シートの5でありますけれども、指標が商品の販売額です。「コロナ対策の実施及び東京都の支援の対策周知は評価するが、新型コロナウイルスの影響が出ていない指標では評価ができない。次回以降は、数年に一度行われる調査を指標とすることは避ける必要がある。新型コロナウイルス感染症がもたらした事業者への影響は甚大であることが予想されるため、財政面も含め総合的に判断して、状況を把握し、具体的な支援を実施するよう尽力してほしい」、こういう格好で整理されております。

次が評価シートの7で、小金井観光協会のホームページへのアクセス数ということでございます。「目標を上回るアクセス数は取組を評価できる。コロナ禍でのステイホームによるインターネットへの接触機会増加が、アクセス増加の一因ではないかと思うので、人々の行動変容を好機ととらえ、市内の専門学校・大学との協力など、新たな取組にも期待したい。また、J:COMとの連携やHPだけでなくインスタグラムなどのSNSの活用など、小金井市の魅力を様々な年代に届けるよう工夫してほしい。様々な年齢に届けるためには、紙ベースでの発信も必要」、こういうふうにまとめていただきました。後ほど意見を伺いたいと思います。

それから、評価シートの8ですけれども、これは地域情報発信サイトの市のホームページへの連携ということでございまして、「新たな取組は評価・期待するが、地域コミュニティSNS「マチマチ」の認知が進んでいないこと、他民間サイトとの情報共有が課題。知名度が高く、利用者数の多いツイッターやフェイスブックなど、シェア機能に長けているSNSで市民と連携した情報発信を進めてほしい。前向きに進んでいるのが見られるが、コロナ禍により取り組めなかった事業は、改めて取り組んでほしい」、こういうふう整理されております。

次が評価シートの9ですけれども、桜まつり・阿波おどり大会・お月見のつどいの来場者数という項目です。「数年の間は従来通りの方法でのイベント開催は難しいため、規模の縮小、

オンライン開催など具体的な方法を模索し、実施を検討してほしい。また、新型コロナウイルス以前には完全には戻れないことも前提に、イベントのあり方、新しいプロモーションの方策を早期に検討していただきたい。今後またイベントを実施できない状況になった際に生かせるよう、新型コロナウイルスの経験から学び整理しておくことが重要」と整理されております。

次が10番ですけれども、市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合という項目であります。「コロナ禍で厳しい状況であったが、新たな形態の活用方法が模索されていることが評価できる。引き続き運営を工夫していただきたい。新型コロナウイルスに限らず何らかの理由で運営が困難になる事態はあり得るので、対応をリスクマネジメントとして検討していただきたい」。

次が11番で、はけの森美術館の件でございます。「動画作成・配信は、コロナ禍で美術を楽しむ方法として評価できる。作って終わりではなく、拡散する方法や自然と絡め、人を呼び戻す方法については、さらに取り組む必要がある。バーチャルの世界で美術を楽しみ、実際に美術館訪問につながるよう、アフターコロナに向けた改善・取組も検討してほしい」、こういう格好で整理されております。

次が13番ですね。13番は市民協働支援センター準備室で受けた相談件数に関わることでございます。「他事業の取組とも整合性がとれ、相談件数を維持している点は評価できる。コロナ禍だからこそ市民協働や活動の重要性に気が付く人もいるので、引き続き支援を続けてほしい。指標の相談件数だけでなく、相談の結果や効果、どのような活動が実現・前進したのかを明示してほしい」ということで整理されております。

次が最後というか、最初の最後ですけれども、国際交流事業に参加した人数ということで、評価シートの14ということです。「施策研修の要望対応や、オンライン参加への対応などは評価できる。引き続き、コロナ禍でもできるイベントの工夫、改善に努めてほしい。パンデミック下での国際交流事業は、よりその意義が高いものになるので、オンラインで一定の参加規模に対応できる環境を整備し、今回のような当初の計画を変更して実施しなくてはいけない状況への対応を用意しておいていただきたい」ということでございます。

以上が評価シートの2から14ということでございます。「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」ということでございます。

今読ませていただいた2から14について、評価シートの何番のここがこうしたほうがいいんじゃないかという御意見があれば委員の皆さんからお願いいたします。いかがでしょうか。

◎小川委員 評価シートの8なんですけれども、ここだけが1つも丸がついてないということなんです。評価が三角だけになっています。私が感じているのは、SNSとかフェイスブックなどいろいろ活用はされているんですけども、紙ベースで情報を発信するということがすごく大事ななと思っています。ぜひ紙ベースでの情報発信を充実させるようにしていただきたいと思います。よく紙ベースの中で、詳しくはこのアドレスへという形で載っているのはちょっと不親切かなと思うようなときがあるので、御配慮いただけたらと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。ほかのところで何点か紙ベースでという表記がありましたけれども、こことかなかったので、小川先生も書き忘れたというところがあるのかもしれませんが、事務局で御対応をお願いいたしたいと思います。事務局、よろしいでしょうか。

◎梅原企画政策課長 文面についてまた考えさせていただきたいと思います。またお示しさせていただきます。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。ほかに2から14の間でこうすべきとか御意見があればお願いします。よろしゅうございますか。お願いします。

◎宮坂委員 まず、評価シート9のところなんですけれども、32年度のところ、これは事務局に聞いたほうがいいのかもかもしれませんが、評価についてはA B C Dのランクが全然ついてないですよ、この評価シート。これは何か理由があるんですって。

◎渡邊委員長 事務局のほうで分かるでしょうか。

◎前坂企画政策課企画政策係主任 こちらは桜まつりなんですけれども、去年は新型コロナウイルスの影響でお祭り自体が中止となっていたため、こちらの指標については空欄となっております。

◎宮坂委員 つまり、実態に即した形で空欄にしているということですよ。

◎前坂企画政策課企画政策係主任 はい。

◎宮坂委員 そういう流れであれば、先ほど冒頭に事務局からもお話があったと思うんですけれども、評価シートの5ですよ。小売業の年間商品販売額のところなんですけど、これについては結構皆さん厳しい評価をつけていて、この指標では評価できないという話だったんですね。ところが、担当セクションから上がってきた評価というのはAという数字が出てるんですけど、これはつまり、評価できない指標に基づいて担当セクションが加えてきた評価、そういうことなんですか。

◎渡邊委員長 事務局、コメントありますか。お願いします。

◎梅原企画政策課長 シートの5につきましては、平成26年度の金額が650億円であったということで、目標としては維持ということでしたので、これを金額的に650億を上回っているということでAということで、評価のつけ方としてはAということになるわけなんですけれども、委員の皆様から御指摘がありますように、5年に一度の数字になりますので、なかなか毎年度評価するには適さないというのはそのとおりですので、そのように思っております。

すみません、通信が悪くて切れてしまったかもしれないんですけれども。

では、最初から申しますと、平成26年度の現状値に対して目標の維持をクリアできているという意味ではAというつけ方になるわけなんですけれども、委員の皆様からの御指摘がありますように、5年に一度しか変わらない数字をここで用いているというのは、なかなか毎年度、確認のしようがありませんので、この辺りについては我々も認識し、新しい基本構想では適切な形にしていきたいと考えています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。よろしゅうございますでしょうか、そういう回答で

ございます。

◎宮坂委員 つまり、桜まつりでは実態に即した評価をしているけれども、もう一方の商店街の売上については古い指標に基づいて評価をしているということで、そこら辺のギャップというんですか、その辺のところ、ギャップがあるんですよということが市のほうで委員からそういうふうな認識があったんだということはお伝えしていただければと思うんですが、いかがでしょう。

◎梅原企画政策課長 ただいま御意見いただいておりますので、そのように受け止めさせていただきますと思います。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

◎大森委員 今回の件、かぶるんですけど、まずは5年に一回しか出てこない数字でこれを毎年評価するというのは、先ほど宮坂委員が言われたように合わないと思うんですね。ですから、1つ方法としては、要は5年に一回じゃなくて、毎年というのはなかなか難しいと思うので、もう少しスパンの短いものをベースにするであるとか、それともどうしてもそれができないのであれば、5年に一回かなり厳しく見るとか、そういうふうにしていかなきゃいけないかなと思います。

我々もこれを見ると、毎年見て、先ほど言われたように、変わっていない5年前の数字でAをつけていくというのも時間の無駄としか正直思えないので、ただ紙が増えるだけですから、もう少し早くできるような数字をベースにしながらそれをやっていく。また、どうしても二、三年に一回であれば、それに即した形で3年に一回なり2年に一回なりを厳しく見ていくという形をしていったほうがより効果的だし、深い議論ができるんじゃないかなという意見です。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。事務局で何かコメントございますか。

◎梅原企画政策課長 おっしゃるとおりだと思います。御意見、受け止めさせていただきます。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。PDC Aサイクルを早く回すという意味でも、なるべく毎年くらいのを評価項目にしたいという気持ちはありますね。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。なければ、基本目標の2の「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」という、評価シートでいくと16から25に移りたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、評価シートの16は待機児童の件ですね。「保育施設開設等定員拡充の取組等、具体的な取組があり、年々待機児童数が減少していることは評価できる。こども・子育ての協議会との情報共有を図りつつ、待機児童0人を目指して着実な推進に努力されたい。また、保育園・保育士への支援や、施設の質の向上にも取り組んでいただきたい」とまとめております。

次が評価シートの17でございます。評価シートの17は、認定こども園の設置数でございます。「目標を達成し、安定運営できていることは評価できる。引き続き支援していく必要があるが、目標達成が続いているので、今後の指標について検討する必要がある。昨年度と比べ

て具体的にどのような支援、指導が行われ、効果はあったのかについてしっかり確認、評価し、次年度に向けて支援を強化していただきたい」ということで皆様の御意見をまとめていただいております。

次が評価シートの18でございます。子育て支援ネットワークの参加団体数を指標としたものでございます。「どちらの取組も目的のための目標を年度ごとに設定しステップアップしており、子育て支援ネットワークの参加団体の増加につながっていて評価できる。今後の成長に期待したい。支援が必要な子どものためのネットワークは特に重要であるため、取組強化に努めていただきたい」ということで皆さんの御意見を集約していただいております。

次が評価シートの19でございます。評価シートの19は、一週間における冒険遊び開催回数ということでございます。「新型コロナウイルス感染症の影響が大きいですが、中止しただけでなく、Webでの取組や、感染予防対策を徹底しつつ、開催規模を拡大できたことは評価できる。引き続き改善策を検討しつつ、週5回開催できるよう努力されたい」ということで整理されております。

次が評価シートの20番でございます。20番は、放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数に関わるものでございます。「コロナ禍で制約も多いと思うが、子どもが安全に、そして家族の方々が安心して子どもを参加させることのできる教室運営に期待し、引き続き推進していただきたい。また、児童生徒に配布されているタブレットの安全で有効な活用を進めたい」と整理していただいております。

次が21番でございますが、大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数という項目で、「東京学芸大学との連携強化を評価する。新たな取組に、現場の児童生徒と教師が混乱しないよう十分配慮し、今後の課題にある通り、オンライン学習についての研究を進めていただきたい。さらに、市内にある他大学とも協力関係を強化し、新たな取組の検討も進めていただきたい」ということでまとめてあります。

次が評価シートの22番でございます。これは地域活動に関わろうとしている児童生徒の割合、ボランティア活動に取り組んでいる生徒の割合という項目です。「地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合が維持されていることは評価できる。コロナ禍により社会の様々な弱者が浮き彫りになったこの機会こそ、児童生徒の考えるモチベーションをあげる効果的な指導・助言が求められる。参加意識の向上と維持のため、指導室ではこれまで以上に特別活動の実施の確保を図るように指導し、教育課程届で確認していただきたい。また、今後のコロナ禍のようなリスクを想定し、取組のあり方を検討いただきたい」という格好で整理されております。

次が23番です。しごとづくりに関わる相談件数ということです。「相談件数は目標を超え、コロナ禍の環境変化に合わせてテレワーク利用の受付を開始したことは評価できる。コロナ禍の長期化、ポスト東京五輪など、事業や雇用への影響は今後も続くとみられるが、創業支援の期待に応えられるよう取組を進め、さらに、その内容と成果の検証をしていただきたい」とい

う格好で整理されています。

次が24です。24番目は、審議会等への女性の参画率ということです。これについては、「無理に50%を目指し、女性登用率だけが目的になってしまわないよう、子育て世代や介護が必要な家族がいる人、障がいを持つ家族がいる人など、その場にふさわしい人を登用できるよう努めていただきたい。一方で、長い慣行や文化的背景から、女性参画の低さを問題視して始まったものであるため、目的を見失わないよう、工夫して、様々な属性の人の意見を集められるよう推進していただきたい」ということです。多分タイプミスじゃないかと思うんですけども、集められるように推進していただきたいと直していただきたいと思います。

次が25番、この項の最後でございますけれども、男性職員の育児休業取得に関わることでございます。「平成27年度の10%から年々増加し、令和2年度は47%と年々増加していることは評価できる。男性が育児休暇を取りやすい環境づくりを重要視し、職員の意識の変化、市民の理解など、残る課題は何か全体を俯瞰して具体的な対策を検討することが必要」という格好でまとめていただきました。

以上、基本目標「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」ということで、シートナンバーの16から25までをつたないですけど、読ませていただきました。この16から25について何かコメントがあれば委員のほうでお願いいたします。挙手で願えればと。

◎飯田委員 評価シートの16、17の件なんですけど、保育施設であったり認定こども園の設置数などに関して、新規施設の開設だったり待機児童の解消だったりいろんな取組が行われていて、効果も出てきているのは評価できると思うんですけども、先日、ニュースでも大きく取り上げられた保育園バスで取り残されて亡くなった事件がありましたけど、そういう事故、事件を事前に防止できるように、市として各施設に対して定期的に調査だったり、注意とか確認などを強化して具体的な対策を練っていただけたらいいなと思います。

◎渡邊委員長 飯田さん、ありがとうございます。事務局から何かコメントがあればお願いします。

◎梅原企画政策課長 いただいた御意見につきましては、担当課にもお伝えさせていただきたいと思います。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。飯田さん、よろしゅうございますか。

ほかにございますか。

なければ、時間の都合もありますので、基本目標3の「時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち」ということで評価シートの26から39まで、これで最後になりますけれども、これを確認していきたいと思います。私のほうで読ませていただきます。

評価シートの26、これは住居専用地域の割合ということでございます。これについては、「住居専用地域の割合は大きく変更がないため、指標にとらわれず能動的な行動を求める。次年度以降は指標を改めるべき。都市計画変更の有無は市民への周知が難しいので、紙ベースで

の情報発信を積極的に継続させていただきたい」ということでございます。これも先ほどのコメントと同じようなことがあります。

次が27番。27番は、高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数に関わることでございます。「市報などの紙ベースや、市ホームページ、介護士やケアマネージャー、同居家族など、様々な媒体を通じた広報を図り、必要な方に支援が届くようにしていただきたい。評価が低く、目標と結果の乖離が依然として大きいのはなぜか、詳しく検証し、制度の使い勝手の面で課題はないか精査する必要がある」ということで課題をいただいているということでございます。

次が評価シートの28です。C o C oバスの利用者数についてということです。「シルバーバスの普及やコロナ禍によるニーズの変化、運行本数の問題、駅までの所要時間など、現行のサービスには課題がある。運行ルート再編検討は歓迎されているため、ニーズに合わせて再編するとともに、京王線・西武線へのアクセス強化など新たな通勤通学のニーズを生むような大胆な事業再編成も検討いただきたい」ということで整理されております。

次が評価シートの29番です。これは自主防災組織の数に関わることです。「新規で2団体結成があり、着実に成果が見られることを評価する。昼間の人口形態を考えると、官民連携を図る重要性があり、共助の観点からも重要な取組であるため、市でも、防災グッズを添付した資料の配布や、活動自体だけでなく活躍する人に焦点を当てたインタビューなど、市民にとってより身近に感じられるPRを行い、市民、特に次世代を担う子育て世帯等、取り込めるような取り組みを行っていただきたい」ということで整理されています。

30番、これは刑法犯の認知件数ということでございます。「認知件数が減少していることは評価できる。刑法犯0と認知件数0は必ずしも一致しないため、犯罪を0とする防犯活動として、「こきんちゃんあいさつ運動」や「青パトロール」「広報活動」は重要であり、さらに力を入れていただきたい。安全・安心のまちづくりは、住みやすいまち小金井をアピールする上でも不可欠であるため、詐欺に遭いやすい高齢者への注意喚起の取組や、警察とのさらなる連携、広報活動の強化で一層の推進を図ってほしい」とまとめられております。

評価シートナンバー31です。これは認知症サポーター数に関わる委員会コメントのまとめです。「コロナ禍の中で手法を変え、受講者数を増やしたことは評価する。オンラインでの開催も取り入れつつ、より多くの人に講座を受講してもらえるように取り組んでいただきたい。また、講座内容はこれまでの踏襲ではなく、感染予防をした上での認知症の方への対応など、新たに加筆する必要があるものは、早急に対応いただきたい」。

シートナンバー32、これは地域密着型サービス事業所の数ということでございます。「新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取組ではあるが、事業所数が伸び悩んでいるため、事業者の継続的な運営に向け可能な限り支援し、小規模多機能型居宅介護などのモデル崩壊を回避していただきたい。この項目の評価は単独で行うのではなく、評価シート31認知症サポーター養成講座とともに利用促進を進めていただきたい」ということで皆さんの御意見が集約されております。

シート33です。これは小金井さくら体操の参加数ということでございます。「新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、高齢者の運動量を確保する素晴らしい企画であるため、感染症予防対策を徹底しながら、できるだけ実施し、次年度もオンラインでの開催を検討していただきたい」となっております。

34番目、65歳健康寿命の延伸です。「福祉の要として重要な取組であるため、継続して多くの人が健康診断を受け、健康寿命を延ばせるよう、今後の量と質の向上に期待する」となっております。

次が35番でございます。35番は、スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数に関わることであります。「コロナ禍でもできる限り創意工夫し、開催できるよう検討いただきたいが、令和2年度のように、中止の判断を比較的早くし、混乱を生じることを少なくすることも必要」と整理されております。

36番は、高齢者いきいき活動講座参加率ということです。これに関しては、「ポストコロナを見据え、開催方式、募集人数を見直し、経済格差や情報弱者が生じないよう配慮して様々な企画を工夫していただきたい」ということで整理しております。

次は37番です。これはボランティアセミナー参加者数ということです。「コロナ禍において、実施方法を講演から映像に変更し、参加者を確保したことは評価する。評価シート22地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合とも関連付け、引き続き状況に応じた柔軟な対応を今後も実践し、多くの人が興味を持ち、参加しやすい環境づくりに努めていただきたい」ということで整理してございます。

38番です。これは図書館における住民1人当たりの図書貸出冊数に関わるコメントです。「新型コロナウイルス感染症の影響があったと思うが、オンライン対応、電子書籍は有効な施策であるため、見通しを立てて取組を一層進め、新たな取組も検討いただきたい」ということでまとめてあります。

最後、評価シートの39です。これは公民館の平均稼働率ということです。「新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。ポストコロナを見据え、経済格差や情報弱者が生じないよう配慮し、希望の持てるような企画や講座で利用者呼び戻していただきたい」ということで整理されております。

以上が基本目標3の「時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち」ということで評価シート26から39まででございます。この26から39についてまとめ方等について御意見のある委員は挙手をお願いいたします。よろしゅうございますか。

では、最後の基本目標3に関しては、ここにまとめられたとおりということで終わりにしたいと思います。

以上、評価シートの確認ですけれども、これでこの件は終わりにしたいと思います。

事務局でこの件について何かございましたらコメントをお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 評価シートを御確認いただきましてありがとうございます。御議論い

ただいた内容について、修正が必要な箇所については、次回、保留となっているシート1、6、15と合わせてお示しをさせていただきたいと思います。

それでは、続きまして、資料1、2も含めて第1期総合戦略全体の振り返りについて御意見、また御感想等ありましたらお伺いしたいと思います。

初めに報告させていただきましたとおり、第1期の総合戦略は平成27年度から令和2年度までの6年間の計画期間が終了したところでございます。お手元にあります資料や評価シートを参考に、総合戦略全体について御意見、御感想等ありましたらお願いしたいと思います。委員長、お願いいたします。

◎**渡邊委員長** それでは、せっかく参加していただきましたので、何かあればお願いしたいんですけども、僕のほうから御指名してよろしいですか。小宮さん、いかがですか。

◎**小宮委員** 私、こちらの目標を作るところからずっと参加をさせていただいておまして、6年間でいろいろと変わってきたというか、世の中で変わってきたとか、そういう部分が出てきているんだなと率直に目標の振り返りをしながら考えていたところでございます。やはりコロナであったりですとか、あとは重大災害、こちらは私も意見として出させていただいたんですけども、昔では考えられないようなことがどんどん起きているというところでございますので、第2期、そういうところもいろいろと加味しながら、今度、目標等々も変えていかないといけないというところになってくるのかなと率直な思いとして持っているところです。

◎**渡邊委員長** ありがとうございます。私の画面に出る順番で御意見をお願いします。大森さん、何かございますか。お願いします。

◎**大森委員** 長く言うのはあれなんですけど、先ほどの議論でもあったように、比較的データとか評価をするに当たってベースとなるものがちょっと曖昧だったりすることがあるので、確かに基本構想とか、そこからつながってきて、そこで出た目標を我々は評価するという会議体だと思うんですけど、そのベースがしっかりしていないと、ややもすると時間の無駄だなと思うようなこともぼろぼろ出てきていますので、この辺は何年かやってきた事業ですから、そういうところはもう少しフレキシブルに事業ごとに数字、その他等々、きちっとそろえていただいて、その上で評価、また意見集約をしていったほうがよりいいものになるんじゃないかなということを今後考えていただきたいということでお願いします。

◎**渡邊委員長** 大森さん、ありがとうございます。宮坂さん、何かございませんか。

◎**宮坂委員** ポストコロナという話も出てましたけれども、果たして本当にポストコロナ、来年なるのかどうかということも分からないし、もしかしたらまだ1年、2年、ウィズコロナでいくかもしれないので、そういった部分も加味して、現実の厳しい見通しをリスクマネジメントという意味で、それを踏まえた形でいろんな戦略とか構想とか考えていただけたらなと思います。

◎**渡邊委員長** 小野さん、何かあればお願いします。

◎**小野委員** これからコロナというのはしばらく続くと思いますので、コロナだからできない

というわけではなくて、コロナでもできる工夫というのが必要かなと思っています。どの市でもいろいろな活動をされてる方は工夫されて、ウィズコロナという形で考えると思いますので、引き続き小金井市さんとしてもコロナとうまくつき合いながら考えていただければと思います。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。野口さん、何かございますでしょうか。

◎野口委員 私からは特にそんなにないんですけども、小野さんも申しましたとおり、コロナは簡単にすぐに収束するとは思えないので、上手につき合いながら小金井市でいろいろなことで対応していただけたらと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。それでは、飯田さん、何かあればお願いいたします。

◎飯田委員 私も特にそんなにないんですけど、こういう話合いを持つ機会があるからこそ、どういう対策を練ったらいいかとか、具体的な案をみんなで出し合えたらいいなと思うので、こういう機会にそういう議題で話し合うとかができたらいいかなと思います。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。小川さん。

◎小川委員 すみません、ハウリングしてるかと思うんですけども、話をさせてください。

評価のところの39も全部三角だったんですね。評価の2か所だけ全部三角というのがあったんですけども、共通しているところは、情報格差と経済格差が大きくなってきているなどいうのをすごく感じています。パソコンが使えたりZoomが使えたりするのが当たり前のような対応ではなくて、それができない人もたくさんいるんだと。経済的に豊かでも情報がものすごく少なくなっている高齢者の人とかいますし、パソコンが自宅だったり、なかなか入手できない方もいらっしゃるの、いろんな形で情報が共有できるような小金井市になってほしいなと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。事務局、何かございますか。よろしゅうございますか。

では、皆さんの御意見、御感想を伺ったということでございます。どうもありがとうございました。積極的で前向きな御意見、本当にありがたいことだと思います。こういう計画はPDCAサイクルで回さなきゃいけないので、そのサイクルが4年だと長過ぎるので、1年とかで回るような指標というのが重要かなと思います。

◎渡邊委員長 それでは、今日用意していただいた議題の3番目に移りたいと思います。次回の日程について、これを議題としたいと思います。事務局のほうであればお願いいたします。

◎梅原企画政策課長 次回の会議日程についてですが、今年度は対面での会議が開催できていないこともありまして、緊急事態宣言の状況等も踏まえ、改めて調整をさせていただきたいと思っています。

また、保留となっております評価シートの作成についてもお願いしたいと考えておりますので、日程調整及び評価シート作成等の依頼につきまして、後日改めてメールを送らせていただきます。お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。次回の予定について今説明がございました。それまでの宿題もお話もございましたけれども、何か御質問等ございますか。

なければ、次の議題4、その他に移りたいと思います。その他について事務局で何かございますでしょうか。お願いいたします。

◎梅原企画政策課長 事務局からは特にございません。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。その他の議題ということでは事務局はないということで、委員の皆さんで何か一言あれば伺いたいんですけれども、よろしゅうございますか。

では、今日用意していただいた議題4個、全て終わりということでございます。ほかに何もないということですので、本日の第2回の小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会をこれで終了したいと思います。長い間ありがとうございました。これで終わりとします。

(午後8時22分閉会)